

子宮腺系病変における同一症例の細胞像と組織像の形態学的比較検討および免疫組織化学的解析

【はじめに】子宮腺系病変は、子宮頸部・体部共に近年増加傾向にあります。子宮がんの検査方法の1つである細胞診は、病変の早期発見において有用性が高いことが知られています。しかし、子宮頸部・体部の異型を示す腺細胞は、病理組織学的検査と細胞診検査との対応について十分に検討が行われていません。このため、同一症例における細胞像と組織像の形態学的比較および免疫組織化学的解析を行い、臨床所見および検査所見との相関を検討することは大変重要となります。

【対象】1990年1月1日から2010年12月31日までに九州大学病院産婦人科にて、子宮摘出術および組織・細胞診検査を受けられた方の病理組織標本約200症例と細胞診標本約200症例を対象とします。

【研究内容】病理組織標本およびそれに対応する細胞診標本について、組織像・細胞像を比較しどのように反映されているかを解析します。また、パラフィン包埋組織を用いて、各種蛋白質等の発現を免疫組織化学的に解析し、これらの結果と細胞像や臨床所見、病理所見との関連を解析します。

【患者さんの個人情報の管理について】本研究では個人情報漏洩を防ぐため、個人を特定できる情報を匿名化し、データのデジタル化、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取っています。本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

【研究期間】研究を行う期間は承認日より平成28年8月までです(5年間)。

【医学上の貢献】研究の成果は子宮頸部・内膜細胞診の診断精度の向上に寄与できる可能性があります。

【研究機関】

責任者：九州大学大学院医学研究院保健学部門・教授・加来恒壽

分担者：九州大学大学院医学系学府保健学専攻・大学院生・遠峰由希恵

九州大学院医学研究院保健学部門・助教・渡邊寿美子、准教授・田宮貞史、教授・杉島節夫

九州大学院医学研究院生殖病態生理学・教授・和氣徳夫、准教授・小林裕明

九州大学院医学研究院形態機能病理学・教授・小田義直

連絡先：九州大学大学院医学研究院保健学部門・加来恒壽（責任者）

〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1

Tel : 092-642-6708

e-mail : kakut@med.kyushu-u.ac.jp